

## 【別紙 2】

## 審査の結果の要旨

申請者：菊池 良太

本論文の目的は、思春期臓器移植患者を対象に、1) health-related quality of life (HRQOL) と服薬アドヒアランスに関して、進学・組替えの前から後にかけての変動の有無を確認すること、そして、2) HRQOL と服薬アドヒアランスには、臓器移植に関する自己開示の満足度が関連していることを確認することとした。研究デザインは、多施設共同による、移植後 2 時点での仮説検証型パネル研究とした。調査期間は、新年度が開始する 4 月を跨いだ 2 期とし、1 回目調査は 2016 年 1 月-3 月（進学・組替え前：T1）、2 回目調査は 2016 年 4 月-7 月（進学・組替え後：T2）とした。対象は、肝臓移植、腎臓移植もしくは心臓移植のいずれかを行った、T1 調査時点に小学校 6 年生から高校 2 年生の患者とその保護者とした（ただし、選択基準を満たした心臓移植患者はいなかった）。T1 と T2 の各期において、自記式質問紙調査と診療情報調査を行なった。HRQOL は日本語版 PedsQL™ コアスケール（全般的 HRQOL）と日本語版 PedsQL™ 移植モジュール（移植特異的 HRQOL）により評価を行ない、服薬アドヒアランスの評価には Medical Adherence Measure を用いた。統計解析について、目的 1 については、PedsQL™ コアスケールと PedsQL™ 移植モジュールの得点、そして MAM では内服忘れと内服遅れの差について、それぞれ T2 の得点から T1 の得点を引き、平均値の  $\pm 1/3SD$  を基準として、維持群、改善群、悪化群の 3 群に分け、検討を行なった。目的 2 については、構造方程式モデリングにより、T1 から T2 にかけての HRQOL と服薬アドヒアランスの得点の差に対する、臓器移植に関する自己開示の満足度の得点の差との関連についてモデルを作成し、適合度を確認した。本研究により、以下の 2 点の結果を得た。

1. 進学・組替えの前から後にかけて、HRQOL と服薬アドヒアランスには、維持群、改善群、悪化群が存在することが明らかになった。
2. 進学・組替えの前から後にかけての学校の友人に対する臓器移植に関する自己開示の満足度が上昇するほど、HRQOL と服薬アドヒアランスは上昇・改善することが明らかになった。

以上の結果により、進学・組替えの前後は、思春期臓器移植患者の HRQOL と服薬アドヒアランスに変動が生じ得るとともに、臓器移植に関する自己開示の満足度は、HRQOL と服薬アドヒアランスに対する重要な要因となることが示唆された。本研究は、思春期臓器移植患者の HRQOL と服薬アドヒアランスの向上を目的とした支援への重要な貢献を成すと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。